

# 中学生の進路選択と学校生活に対する意識に関する研究\*

久世敏雄 原田唯司<sup>1)</sup> 後藤宗理<sup>2)</sup>

宮沢秀次<sup>3)</sup> 二宮克美

## I 問題と目的

中学生は、自己の進路を選択する際に、どんな要因を重視しているのだろうか。特に、中学卒業後に高校へ進学するのか、それとも就職するのか、進学するとして普通科にするのか、職業科にするのかを決定する時には、一体どのようなことを考慮に入れているのだろうか。また、中学生は、進路を選択するに当たって、どの程度自分の意見が反映されていると感じているのだろうか。さらに、両親や先生の助言や指導は、中学卒業後の進路の選択や決定に対して、どれくらいの重要性を持つと受けとめられているのだろうか。このような問題を解明することは、中学生の進路選択の実状を知るのに必要であるばかりではなく、中学生が今後の自己の人生をどのように展望しているのかを知る上で、欠かせない資料を提供することになる。

われわれは既に、名古屋市内の中学校に通学している3年生を対象にして、進路選択に関する調査を行なった。そして、収集されたデータの中から、高校への進学を希望している者を取り出して、志望する課程（普通科か職業科か）ごと、また、男女ごとに、進路選択に際し重視する要因、受験校や将来の職業を決定する時の主体性の程度を分析し、同時に、1956年のデータとの比較を試みた（久世・後藤、1980）。それによれば、普通科を志望する男子は、職業科を志望する男子よりも、進路を選択する時に、学業成績や模試の成績を重視し、親の職業や家庭の経済力はあまり重視していないことが報告されている。また、かなりの中学3年生は、進路選択に際し、

自分の意見が反映されているという意識を持っていること、さらに、普通科志望者は職業科志望者に比べて、進路、将来の職業、受験勉強の方法を決定する時に、自分の考え通りにする者の割合が多いことも見出されている。

ところで、愛知県では、1973年度より高校入試において学校群制度が採用されている。学校群制度とは、有名進学校への受験生の過度の集中を緩和し、大学進学率の高低による高校間のランキングを平衡化することによって、高校受験の過熱化を抑制するために生み出された新しい高校入試制度である。この制度が導入されたことによって、高校への進学を希望する中学生は、進学先を公立高校とするか私立高校とするか、普通科にするか職業科にするかという従来通りの決定に加え、学校群内の高校とするのかそうしないかの判断が求められることになる。学校群制度の実施が、中学生の進路選択に関する意識とどんな関連を持っているのかを知ることは、興味深い問題であるといえよう。

さて、そもそも中学生にとって、自己の進路を選択し決定することにはどんな意味があると考えられるだろうか。ここ15年ほど、高校への進学率は大幅に上昇し、現在では、大多数の中学生が高校へ進学することは、極めて普通のこととなっている。久世・後藤（1980）の研究でも、対象とした1272名の中学3年生のうち1213名が高校への進学を希望し、率にして95.4%の高率であった。

一方、最近ではその比率があまり増えていないとはいえ、大学・短大への進学を希望する者は、同一年齢の半数に達する勢いである。したがって、普通科高校への進学を志望する者のうちかなりの者が、ある程度大学や短大への進学を念頭に置いているといってもよからう。特に、学校群内の高校への進学を希望する者は、大学への進学の意志が他の者に比べて明瞭であるといっても過言ではない。なぜならば、学校群内の高校は、すべて普通科の、しかも学校群制度の導入以前から大学への進学率の高いことでは定評のある、いわゆる有名進学校が多いからである。したがって、学校群の中に含まれる高校に進学することは、大学への進学という問題が、より現実

\* A study on attitudes toward school lives and educational course selections among secondary students.

本研究の資料分析のための計算は、名古屋大学大型計算機センターFACOM M-200によった。

1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程（後期課程）教育心理学専攻  
2) 名古屋市立保育短期大学  
3) 市邨学園大学

的になることであり、大学進学のもっとも順調かつ安全なコースをたどることでもある。その意味で、大学進学への基礎的な資格を獲得することを示しているといえよう。もちろん、他の公立高校や私立高校、あるいは職業科の高校へ進学したからといっても、大学進学への門戸が閉ざされるわけでは決していない。名古屋市内やその近郊には、大学への進学者を多く輩出している私立高校があるし、また、学校群の中に含まれない公立高校でも、大学への進学指導に力を入れている高校が増えつつあるからである。学校群内の高校は、その歴史や伝統、あるいは現在の教育環境からみて、他の高校に比べ有利な条件が多いというだけであり、大学進学に向けての主体的な努力が最も重要であることは、論をまたない。

このようにみえてくると、中学卒業後に、進学するか就職するか、進学するとしてどんな高校を選ぶかということとは、単に中学3年生の時点における一時の選択であるということだけにとどまらず、後の人生をある程度規定する重大な選択であると考えられる。したがって、中学生の進路選択は、今後の人生に影響を与える最初の決断であり、その意味では人生選択でもあるといえよう。

従来の中学生の進路選択に関する研究では、高校進学を希望する者を対象にして、その志望する課程（多くは普通科と職業科とに二分している）ごとに、高校進学の原因や、進路選択において重視した要因の相違を比較したものが多く（例えば、神谷；1979など）、学校群制度と関連させて分析を試みた研究はほとんどみられない。したがって、進学志望先を学校群内の高校とするのか、それとも、学校群には入らない公立高校や私立高校を志望するのかという観点から、中学生の進路選択の様相を検討することは意味のあることであろう。また、従来の研究では、各々異なる進学先を志望することが、日常生活意識にどんな関連を持っているのかという点についての言及もあまりされていない。そこで、進学志望先の相違によって、中学校生活に対する意識にどんな違いが見られるのかを検討することも興味深い問題となろう。

本研究では、以上の問題意識に基づいて久世・後藤(1980)の研究と同一のデータを使用して、進学志望先による進路選択や学校生活に対する意識の相違をみることを目的とする。具体的には、分析の対象を全日制普通科高校を志望する者に限定し、その進学志望先が、学校群内の高校である者(A群)、学校群に含まれない公立高校である者(B群)、さらに、私立高校だけである者(C群)の3群に分けた時、進路などを決定する際の主体性の程度にどんな違いが見られるのか、また、中学校生活に対する満足度や、友だちとの会話の内容と程度がどのように異なるかについて検討する。

## II 方法

### (1) 調査対象

名古屋市内16区、22校の公立中学校3年生1272名(男子665名、女子617名)のうち、中学卒業後に、全日制普通科高校に進学を志望する者870名を調査対象者とした。その内訳は、学校群内の高校を進学志望先とする者292名(男子147名、女子145名)、学校群には含まれない公立高校に進学を志望する者329名(男子169名、女子160名)、私立高校だけに進学を志望する者249名(男子123名、女子126名)である。

### (2) 調査時期と調査手続き

調査は、1979年2月下旬から3月中旬にかけて、質問紙調査法によって実施した。なお、調査は各クラス担任の先生に依頼した。質問項目の作成に当たっては、日本教育学会入試制度研究委員会(1978)の使用した項目を参考にした。末尾に、本調査で用いた質問項目を掲げておいた。

## III 結果

### (1) 進路選択において重視する要因

中学生が、自己の進路を選択する時に考慮すると考えられる要因は、①学業成績、②模試の成績、③自分の興味・関心、④親の職業、⑤家庭の経済力、⑥進学先の評判、⑦自分のなりたい職業、⑧通学距離、⑨家族の意見、⑩先生の意見、⑪友だちの意見などであろう。これらの要因が進路選択に際しどの程度重視されているのかを知るために、これら11個の項目の各々について、「よく考えにいった」「やや考えにいった」「どちらともいえない」「あまり考えにいれなかった」「全く考えにいれなかった」の5段階評定を求めた。そして、順に5点から1点を与えて各項目の得点とした。したがって、得点が高い項目ほど、進路を選択する際に重視されたことを示す。

表1は、進学志望先が学校群内の高校である者(A群)、学校群外の公立高校である者(B群)、私立高校だけである者(C群)に分けて項目別に平均値と標準偏差を算出した結果を示している。さらに、各項目ごとに性別と進学志望先別の2要因による分散分析の結果も示した。

全体として、「学業成績」「模試の成績」「先生の意見」、および、「家族の意見」が重視されている。中学3年生は、自己の進路を決定する時に、自己の学力と、先生、家族など身近な大人の意見の双方を考慮に入れているといえる。その反面、「親の職業」「家庭の経済力」については、あまり重視されているとはいえない。これらの要因は、中学生の進路選択にとっては、あまり関連

資 料

表1 進路選択において重視した要因

項目	進学志望先		A 群		B 群		C 群		性 差		進学志望先別の比較			交互作用	
	性別		男子	女子	男子	女子	男子	女子	検定結果	男-女	検定結果	A-B	B-C		A-C
学 業 成 績			4.70 (0.66)	4.78 (0.48)	4.43 (0.86)	4.55 (0.73)	4.16 (0.94)	4.51 (0.81)	**	<	**	>	>	>	
模 試 の 成 績			4.39 (0.90)	4.51 (0.63)	4.23 (0.93)	4.34 (0.80)	3.68 (1.16)	4.04 (0.94)	**	<	**	>	>	>	
自分の興味・関心			3.53 (1.33)	3.94 (1.07)	3.41 (1.25)	3.72 (1.13)	3.39 (1.30)	3.60 (1.19)	**	<					
親 の 職 業			1.60 (1.11)	1.61 (1.06)	1.70 (1.14)	1.64 (1.05)	1.96 (1.25)	1.70 (1.01)			*			<	
家庭の経済力			2.49 (1.41)	2.83 (1.45)	2.55 (1.39)	3.03 (1.36)	2.40 (1.30)	2.73 (1.19)	**	<					
進学先の評判			3.59 (1.19)	3.65 (1.01)	3.37 (1.14)	3.49 (1.02)	3.02 (1.30)	3.52 (1.24)	*	<	**		>	>	
自分のなりたい職業			3.03 (1.44)	3.26 (1.33)	3.09 (1.30)	3.50 (1.27)	3.00 (1.42)	3.33 (1.30)	**	<					
通 学 距 離			3.77 (1.31)	4.23 (0.93)	3.94 (1.14)	3.94 (1.13)	3.27 (1.31)	3.80 (1.17)	**	<	**	>	>	>	
家族の意見			4.14 (0.96)	4.50 (0.77)	4.12 (0.93)	4.34 (0.76)	3.78 (1.10)	4.17 (1.06)	**	<	**		>	>	
先生の意見			4.35 (0.82)	4.46 (0.83)	4.20 (0.93)	4.38 (0.84)	4.15 (1.01)	4.32 (0.85)	*	<					
友だちの意見			2.75 (1.30)	3.02 (1.36)	2.89 (1.22)	3.08 (1.16)	2.54 (1.20)	3.00 (1.28)	*	<					

( )内の数字は標準偏差を示す。また、検定結果欄の\*\*印は、平均値の差の検定の有意性が、 $P < .01$ であることを、同様に、\*印は $P < .05$ であることを示す。性差、進学志望先別の比較欄の不等号は、男女間、ならびに、A、B、C群間の平均値の差の方向を示す。進学志望先別の比較欄の不等号は、上段が男子、下段が女子の結果を示す。表中の数字および記号は、表4についても同様である。

性を持たないと考えられる。

つぎに、進学志望先による相違について検討してみよう。表1に示すように、「学業成績」「模試の成績」「親の職業」「進学先の評判」「通学距離」「家族の意見」の6項目において、進学志望先による差がみられた。このうち、「親の職業」を除く他のすべては、学校群内の高校への進学を志望する者の方が、他の者、特に、私立高校だけを志望する者よりも考慮に入れている要因である。また、男子においては、「進学先の評判」は、学校群内の高校を志望する者が重視する要因であり、「親の職業」は、逆に、学校群内の高校を志望する者が重視しない要因である。以上のように、進路選択の際に、どんな要因をどの程度重視するかということは、進学志望先をどんな高校にするかにより異なっているといえる。自己の学力、家族の意見、通学距離、進学先の評判などは、学校群内の高校を志望する者と私立高校だけを志望する者との間で、重視する程度が異なる要因である。これらの要因は、前

者においてより重視されている。

つぎに、性差については、表1に示すように、「親の職業」以外のすべての要因において有意であり、しかも、そのすべてが、男子よりも女子の方がより重視する要因である。このことは、女子の方が全般的に、進路の選択に際して、様々な要因を考慮に入れる程度が大きいことを示している。

(2) 進路選択における主体性の程度

以上のように、志望する高校が学校群内の高校であるかどうかによって、また、男女によって、進路選択において考慮に入れる程度が異なる要因のあることが示された。それでは、実際に進学志望先の高校を決定する時に、中学生は、どの程度自分の意見が反映されていると感じるのであろうか。また、進学志望先の違いによって、進路選択における主体性の程度に違いが見られるのであろうか。この点を明らかにするために、進路の選択に自分

表2 進路選択における主体性の程度

進学志望先 性別	A群	B群	C群	計
男子	4.07 (0.96)	3.86 (1.14)	3.32 (1.17)	3.77 (1.15)
女子	4.04 (0.91)	3.78 (1.08)	3.60 (1.06)	3.82 (1.04)
計	4.06 (0.93)	3.82 (1.11)	3.46 (1.13)	

( ) 内の数字は標準偏差を示す。

の意見が強く入っているのか、それともまわりの意見が強く入っているのかを質問した。ここでは、進路選択における主体性を、自分の意見がどれだけ強く反映されていると感じているかという点から捉えることとする。すなわち、進路の選択が、「全く自分の意見」「やや自分の意見」「どちらともいえない」「ややまわりの意見」「全くまわりの意見」のうちどれであったのかの評定を求め、順に5点から1点を与えて得点化した時、得点が高くなるほど、進路選択における主体性の程度が大きいと考えることにする。

表2は、進学志望先別、男女別に平均値と標準偏差を求めた結果である。全体を通してみれば、中学3年生は、進路の選択に当たって、自分の意見が反映されたと感じている者が多い。

つぎに、性別と進学志望先別の2要因について分散分析を行なったところ、進学志望先に有意な主効果が見られた( $F(2, 841) = 21.66, P < .01$ )が、性別の主効果および、進学志望先と性別の交互作用は有意ではなかった。その結果に基づいて、A, B, C各群の得点の比較をしたところ、A群-B群間、B群-C群間、A群-C群間にはいずれも1%水準で有意な平均値の差が見出された。したがって、C群、B群、A群の順に、進路選択における主体性の程度が大きくなるといえる。すなわち、学校群内の高校に進学を志望する者ほど、進路選択において、自分の意見が強く反映されていると感じている。また、C群においては、有意な性差が見られた( $t = 13.97, P < .01$ )。すなわち、私立高校を志望する者については、女子の方が男子よりも、進路選択における主体性が大きいといえる。

以上から、中学3年生は、進路を選択する時に、自分の意見によって決定するという意識を持っていること、そして、その程度は、進学志望先を学校群に含まれる高校としている者ほど強いといえる。

### (3) 諸問題を自己決定する程度

(2)では、進路の選択という問題に対する主体性の程度について検討を加えた。そこで示唆されたような、進路選択における主体性の程度は、日常生活の中で決定を下すことが必要な問題に対しても、一貫した傾向を持っているのであろうか。言い換えれば、進路選択に限らず、決断が必要な問題に対して、中学3年生は自己決定し得るのであろうか。また、その程度は、進路選択の場合と同様に、進学志望先が学校群内の高校であるかどうかによって異なるのであろうか。

こうした点を明らかにするために、中学生の日常生活で、しばしば決定したり、選択することが求められる問題として、①進路、②将来の職業、③受験勉強の方法、④受験校、⑤クラブ・部活動、⑥休日の過ごし方、⑦異性との交際の7つを挙げ、各々の問題について決定しようとする時、「自分の考え通りにすること」も含めて、つぎに示すような人物や情報源のうち、どの意見にしたがうのがもっともよいかを質問した。選択肢として示されたものは、「父」「母」「きょうだい」「自分の考え通りにすること」「友だち」「先生」「先輩」、および「新聞・雑誌」の8つである。

表3は、各々の問題を決定する時に、どの意見や情報源にしたがうのがもっともよいとするかの選択率の上位1位から3位までを、進学志望先別と男女別に示したものである。

表3によれば、ほとんどの問題に対して、「自分の考え通りにすること」の選択率がかなり高く、ものごとを決定する際に自分の考え通りにするのがよいと考える中学生が多い。特に、「休日の過ごし方」「クラブ・部活動」「将来の職業」「異性との交際」の決定を自分の考え通りにするのがよいとした者は、男女とも半数を越えており、これらの問題に対する自己決定の程度が大きいことを示している。それに対して、「受験校」と「進路」の決定については、「先生の意見」の選択率の方が「自分の考え通りにすること」の選択率よりも高い。

一方、「父母の意見」は、「将来の職業」の決定において、30%近くの選択率を持っている。また、「進路」と「受験校」の決定についても、男子の場合は「父の意見」が、女子の場合は「母の意見」が、各々選択率の3位である。今後の進路に関する問題を決定する時、両親の意見は無視できないものであると考えられる。

以上から、中学3年生は、ものごとの決定に際してできるだけ自分の考え通りにしたいとする希望を強く持ち、自分自身の判断で行動しようとする傾向の強いことがわかる。このことは、先に示唆したような、進路選択における主体性の程度が大きいことと一貫している。また、先生や両親の意見は、今後の進路に関する問題につ

表3 問題別にみた判断のよりどころ

問題	学校群内の高校									学校群外の公立高校									私立高校			(C群)			合計		
	1位			2位			3位			1位			2位			3位			1位			2位			3位		
	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合	進学志望先 性別	順位	割合
進路	男子	自分	48.6	先生	34.9	(8.9)	先生	39.4	自分	35.8	(13.3)	先生	41.2	自分	28.6	(16.8)	先生	38.4	自分	38.1	(38.4)	先生	38.1	自分	38.1	父	12.8
	女子	自分	37.2	先生	35.9	(12.4)	先生	46.5	自分	34.0	(10.1)	先生	41.9	自分	21.8	(19.4)	先生	41.6	自分	31.5	(31.5)	先生	31.5	自分	31.5	母	11.9
将来の職業	男子	自分	78.2	父	15.0	(4.8)	自分	60.1	父	23.2	(6.5)	自分	54.5	父	29.8	(9.9)	自分	64.7	自分	22.2	(22.2)	自分	22.2	父	6.9		
	女子	自分	74.3	父	16.7	(7.6)	自分	64.2	母	18.2	(12.6)	自分	56.3	母	18.3	(14.3)	自分	65.3	母	14.7	(14.7)	自分	14.7	父	14.5		
受験勉強の方法	男子	自分	52.7	先生	19.2	(8.9)	自分	43.9	先生	20.7	(17.7)	自分	45.9	先生	23.8	(15.6)	自分	47.5	先生	21.1	(21.1)	自分	21.1	先生	13.9		
	女子	自分	44.8	先生	23.4	(11.0)	自分	34.6	先生	25.8	(20.1)	友だち	28.8	自分	23.2	(21.6)	自分	34.7	先生	23.8	(23.8)	自分	23.8	先生	18.4		
受験校	男子	先生	49.0	自分	40.7	(4.1)	先生	44.8	自分	38.2	(6.7)	先生	47.5	自分	32.5	(7.5)	先生	47.0	自分	37.4	(37.4)	先生	37.4	自分	6.0		
	女子	先生	47.6	自分	35.2	(8.3)	先生	59.6	自分	26.8	(5.1)	先生	54.8	自分	20.2	(8.9)	先生	63.8	自分	27.7	(27.7)	先生	27.7	自分	7.3		
クラブ・部活動	男子	自分	70.7	友だち	18.4	(8.2)	自分	69.2	友だち	20.1	(5.8)	自分	70.0	友だち	20.8	(5.8)	自分	70.0	友だち	19.7	(19.7)	自分	19.7	先輩	6.2		
	女子	自分	71.7	友だち	20.0	(5.5)	自分	55.0	友だち	29.4	(11.8)	自分	53.6	友だち	30.4	(13.6)	自分	60.2	友だち	26.5	(26.5)	自分	26.5	先輩	10.0		
休日の過ごし方	男子	自分	87.1	友だち	8.2	(1.4)	自分	76.8	友だち	20.2	(1.2)	自分	77.0	友だち	18.0	(3.3)	自分	80.3	友だち	15.6	(15.6)	自分	15.6	母	1.4		
	女子	自分	85.5	友だち	9.7	(1.4)	自分	73.8	友だち	16.9	(3.1)	自分	69.6	友だち	23.2	(4.0)	自分	76.5	友だち	16.3	(16.3)	自分	16.3	母	2.6		
異性との交際	男子	自分	74.7	友だち	18.5	(2.7)	自分	72.6	友だち	21.4	(1.8)	自分	63.6	友だち	28.2	(2.5)	自分	70.8	友だち	22.2	(22.2)	自分	22.2	母	2.3		
	女子	自分	59.3	友だち	24.8	(11.0)	自分	48.1	友だち	37.5	(6.9)	自分	63.6	友だち	41.6	(8.8)	自分	50.0	友だち	34.4	(34.4)	自分	34.4	母	8.8		

( ) 内の数字は百分率(%)を示す。

いては、比較的大きな位置を占めている。

つぎに、進学志望先による違いについてみてみよう。表3に示した、「自分の考え通りにすること」の選択率の大きさを、進学志望先別、男女別に比較したところ、男女とも、「進路」「将来の職業」の決定を自分の考え通りにするのがよいと考える者の割合は、学校群内の高校を志望する者の間で多い(「進路」の決定では、男子の場合  $\chi^2 = 11.82, P < .01$ ; 女子の場合、 $\chi^2 = 8.09, P < .05$ 、「将来の職業」の決定では、男子の場合、 $\chi^2 = 18.79$ ; 女子の場合、 $\chi^2 = 9.70$  ともに  $P < .01$ )。また、女子については、「受験勉強の方法」「クラブ・部活動」「異性との交際」「休日の過ごし方」の決定に際して、学校群内の高校を志望する者の方が、自己決定する程度が大きい(それぞれ、 $\chi^2 = 13.85, P < .01$ ;  $\chi^2 = 12.12, P < .01$ ;  $\chi^2 = 8.78, P < .05$ ;  $\chi^2 = 6.40, P < .05$ )。

以上から、男女によって様相は異なるものの、「進路」「将来の職業」のような、今後の人生の設計に関連した問題の決定については、学校群内の高校を志望する者の方が、自分の考えによって決定するのがもっともよいと考えているといえる。

一方、性差に関しては、「休日の過ごし方」以外のすべての問題において、男女間に違いが見られる。そのうち、「受験勉強の方法」と「クラブ・部活動」においては、女子の方が男子よりも、自分の考えによって決定する者の比率が低く、友だちや先輩の意見に従うのがよいとする者が多くなる(それぞれ、 $\chi^2 = 20.91, P < .01$ ;  $\chi^2 = 14.31, P < .05$ )。また、「進路」「受験校」においても、女子は自分の考えによって決定する者の割合が下がる一方、先生の意見に従う者の比率が男子より高い(それぞれ、 $\chi^2 = 15.21, P < .05$ ;  $\chi^2 = 19.72, P < .01$ )。「異性との交際」についても同様に、女子の方で自分の考え通りとする者の比率が小さくなる一方で、友だちや母の意見が占める割合が男子よりも大きい( $\chi^2 = 47.48, P < .01$ )。また、「将来の職業」の決定に関しては、自分の考え通りとする者の比率は男女間では違いがほとんどないが、第2位として、男子は父の意見、女子は母の意見が選択されていることは注目される( $\chi^2 = 22.75, P < .01$ )。

このように、男子の方が全般的に自分の考え通りに決定するのがもっともよいと考える者が多く、女子は、男子ほどものごとを自己決定する程度が大きくないことがわかる。女子は、友だちや先輩の意見に、また、問題の性質によっては母や先生の意見に従う場合があるといえよう。

#### (4) 中学校生活に対する満足度

今までみてきたように、進学志望先を学校群内の高校にするかどうかによって、進路選択において重視する要

表4 中学校生活に対する満足度

項目	進学志望先		A 群		B 群		C 群		性 差		進学志望先別の比較			交互作用	
	性別		男子	女子	男子	女子	男子	女子	検定結果	男-女	検定結果	A-B	B-C		A-C
授 業 ・ 学 習			3.43 (0.96)	3.38 (0.83)	3.18 (0.96)	3.33 (0.77)	2.86 (0.84)	3.11 (0.79)			**	>	>	>	
ク ラ ブ 活 動			3.10 (1.32)	3.23 (1.07)	3.19 (1.29)	3.27 (1.08)	3.26 (1.13)	3.22 (1.04)							
部 活 動			3.35 (1.20)	3.36 (1.06)	3.24 (1.25)	3.28 (1.10)	3.38 (1.16)	3.22 (1.08)							
ホ ー ム ル ー ム 活 動			2.64 (0.98)	2.76 (0.87)	2.90 (1.01)	2.93 (0.83)	2.98 (0.89)	2.89 (0.81)			*	<		<	
学 校 行 事			3.08 (1.14)	3.26 (1.05)	3.28 (1.14)	3.38 (1.00)	3.06 (1.09)	3.41 (0.97)	**	<					
受 験 指 導			3.35 (1.06)	3.50 (0.99)	3.39 (1.00)	3.43 (0.92)	3.18 (0.91)	3.42 (0.96)	*	<					
学校・学級の雰囲気			3.33 (1.17)	3.54 (1.14)	3.58 (1.17)	3.56 (1.03)	3.21 (1.13)	3.37 (1.01)			**		>		
友 だ ち			4.16 (0.97)	4.34 (0.78)	4.22 (0.97)	4.32 (0.76)	4.20 (0.92)	4.26 (0.95)							
先 生			3.66 (1.02)	3.64 (1.06)	3.62 (1.14)	3.53 (1.02)	3.42 (1.13)	3.51 (1.03)							
学校生活全般			3.61 (0.96)	3.68 (0.99)	3.42 (0.96)	3.56 (0.92)	3.25 (1.00)	3.49 (0.96)	*	<	**				>
家庭生活全般			3.80 (0.97)	4.03 (1.01)	3.62 (0.91)	3.69 (0.91)	3.67 (0.94)	3.56 (1.12)			**	>			>
社会生活全般			3.06 (0.96)	3.09 (0.87)	2.99 (0.95)	2.92 (0.80)	3.08 (0.80)	3.07 (0.75)							
自己の生活全般			3.24 (1.13)	3.37 (1.00)	3.31 (0.99)	3.16 (1.02)	3.22 (1.06)	3.16 (1.03)							

困や、進路の選択も含めたいろいろな問題を自己決定する程度に関して、様々な相違が見られることが明らかにされた。こうした相違は、中学校生活に対する意識に関してもみられるのであろうか。

本調査では、進路選択についての質問以外に、中学校生活の様々な側面についての満足度や、友だちとの会話の内容と程度についての質問も試みている。これら各々に対する回答の結果のうち、まず最初に、中学校生活に対する満足度について検討してみよう。

中学校生活を、①授業・学習、②クラブ活動、③部活動、④ホームルーム活動、⑤学校行事、⑥受験指導、⑦学校・学級の雰囲気の各側面、ならびに、⑧友だち、⑨先生の各人物、さらに、⑩学校生活全般、⑪家庭生活全般、⑫社会生活全般、⑬自己の生活全般の13に分けて捉え

ることとし、各々の項目について、「おおいに満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「全く不満」の5段階評定を求め、順に5点から1点を与えて得点化した。したがって、得点が高い項目ほど満足度が高いことになる。

表4は、進学志望先別に、男女別の各項目に対する満足度の平均値と標準偏差を算出した結果である。

各項目について、進学志望先別と性別の2要因による分散分析を行ない、その結果に基づいて平均値の比較をしたところ、性差に関しては、「学校行事」「受験指導」「学校生活全般」の3つに有意な差がみられた。また、「授業・学習」「ホームルーム活動」「学校・学級の雰囲気」「学校生活全般」「家庭生活全般」の5項目については、進学志望先別に有意な差が見られた。性差のみられた項目のす

べては、男子の方が女子よりも満足度が低く、進学志望先の差がみられた項目では、「ホームルーム活動」以外はすべて、学校群内の高校に進学を志望する者の方が満足度は高い。

全体としては、「友だち」「家庭生活全般」の満足度が高く、「ホームルーム活動」を除けば、特に不満の感じられている領域はみられない。中学3年生は、中学校生活に対して、ほぼ満足しているといえよう。

学校群内の高校を志望する者は、他の者よりも、「授業・学習」面や、「学校・学級の雰囲気」さらに「学校生活全般」「家庭生活全般」の満足度が高く、「ホームルーム活動」にはやや不満を感じていることがわかる。

(5) 友だちとの会話の内容と程度

それでは、各群を通して満足度が最も高い「友だち」に対して、中学3年生は、どれくらいの頻度で、どんな内容の会話をしているのだろうか。そして、志望する高

校の相違や性別によって、友だちとの会話の内容や程度に差がみられるのであろうか。

この点を検討するために、あらかじめ、①勉強や成績のこと、②学習のこと、③家でのできごと、④先生や友だちのこと、⑤異性のこと、⑥歌手やスポーツのこと、⑦入試のこと、⑧将来の職業について、⑨政治・経済や社会のできごとの9種的话题を挙げ、各々の話題について友だちとどの程度話しているかを、「よく話す」「ときどき話す」「ほとんど話さない」の3つのカテゴリーから当てはまるものを選択させた。

表5から表13は、各々の話題について友だちと話す程度（3カテゴリー）と進学志望先（3カテゴリー）による分割表である。各表の上段は男子についての、中段は女子についての分析結果を示す。下段は性別（2カテゴリー）と友だちと話す程度（3カテゴリー）による分割表である。なお表中の数字は人数である。

表5 「勉強や成績のこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
	B群	87	75	7	169
	C群	20	88	15	123
	計	181	227	31	439

$\chi^2 = 45.69 \quad P < .01$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
	B群	87	71	2	160
	C群	45	76	5	126
	計	216	207	8	431

$\chi^2 = 17.71 \quad P < .01$

性別	会話の程度	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
男子		181	227	31	439
女子		216	207	8	431
計		397	434	39	870

$\chi^2 = 17.50 \quad P < .01$

表6 「学習のこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
	B群	55	96	18	169
	C群	14	82	27	123
	計	123	249	67	439

$\chi^2 = 27.32 \quad P < .01$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
	B群	62	85	12	159
	C群	31	73	22	126
	計	147	239	43	429

$\chi^2 = 15.15 \quad P < .01$

性別	会話の程度	よく話す	話す ときどき	ほとんど話さない	計
男子		123	249	67	439
女子		147	239	43	429
計		270	488	110	868

$\chi^2 = 7.47 \quad P < .025$

表7 「家でのできごと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	B群	22	66	80	168
	C群	15	53	55	123
	計	51	183	204	438

$\chi^2 = 1.44$ , n.s.

性別	会話の程度 群	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	B群	53	86	21	160
	C群	48	55	23	126
	計	159	217	55	431

$\chi^2 = 8.70$  n.s.

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
男子		51	183	204	438
女子		159	217	55	431
計		210	400	259	869

$\chi^2 = 144.12$   $P < .01$

表8 「先生や友だちのこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	B群	79	76	14	169
	C群	47	65	11	123
	計	203	202	33	438

$\chi^2 = 6.17$  n.s.

性別	会話の程度 群	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	B群	116	337	7	160
	C群	83	338	5	126
	計	309	109	13	431

$\chi^2 = 6.59$  n.s.

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
男子		203	202	33	438
女子		309	109	13	431
計		512	311	46	869

$\chi^2 = 58.39$   $P < .01$

まず全体を通して見てみると、「入試のこと」「勉強や成績のこと」のような勉強に関連した話題、「先生や友だちのこと」「歌手やスポーツのこと」など日常生活に関連した話題がよく話されていることがわかる。前者の2つの話題は、高校進学を希望する中学3年生にとって、重大な関心の対象となる受験に結びついた話題である。したがって、調査の実施時期を考えた時、これらの話題を友だちと話す機会が多くなることは十分に考えられる。また、後者の2つの話題も、中学生の日常生活の中で比較的身近に存在する他者や、友だちとの日常的な会話の材料になりやすいことから関連している。したがって中学3年生は、自分にとって身近に感じられるものごとについて、友だちと話しているといえよう。その反面、「将来の職業について」と「政治・経済や社会のできごと」については、あまり話されていない。以上から、友だちとの会話は、話題の対象が自分の身近に存在したり生じたりすることがらであるかどうか、また、それにど

の程度自我関与しているかによって、その程度が異なってくるといえよう。

つぎに、進学志望先の相違によって、友だちとの会話の内容や程度にどんな違いがみられるのかを検討しよう。表5, 表6に示すように、私立高校だけを志望するC群は、「勉強や成績のこと」「学習のこと」を友だちと話すことが他の2群に比べて少ない。「入試のこと」についても、男子の場合に同様な傾向がみられる。その逆に、「歌手やスポーツのこと」「将来の職業について」の2つの話題は、学校群内の高校を志望するA群の男子の方が、他の2群の男子に比べて、友だちと話すことが比較的少ない話題である。

また、性差に関しては、表5から表13に示されているように、すべての話題について男女間に違いが見られた。「政治・経済や社会のできごと」を除く他のすべての話題は、男子よりも女子の方で話されることが多く、女子は男子よりも友だちとよく話しているといえる。「家でので

表9 「異性のこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
男子	A群	36	71	39	146
	B群	46	79	44	169
	C群	36	48	37	121
	計	118	198	120	436

$$\chi^2 = 2.50 \quad \text{n. s.}$$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
女子	A群	61	63	21	145
	B群	75	66	19	160
	C群	44	59	23	126
	計	180	188	63	431

$$\chi^2 = 4.89 \quad \text{n. s.}$$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
男子		118	198	120	436
女子		180	188	63	431
計		298	386	183	867

$$\chi^2 = 30.88 \quad P < .01$$

表10 「歌手やスポーツのこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
男子	A群	45	62	39	146
	B群	60	83	26	169
	C群	60	49	13	122
	計	165	194	78	437

$$\chi^2 = 18.30 \quad P < .01$$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
女子	A群	68	66	11	145
	B群	85	56	18	159
	C群	61	52	13	126
	計	214	174	42	430

$$\chi^2 = 3.88 \quad \text{n. s.}$$

性別	会話の程度 群	よく話す	話す ときどき	話さない ほとんど	計
男子		165	194	78	437
女子		214	174	42	430
計		379	368	120	867

$$\chi^2 = 18.17 \quad P < .01$$

きごと」「先生や友だちのこと」「異性のこと」「政治・経済や社会のできごと」の4つは、進学志望先とは関係なく、性差がみられた話題である。女子の方が、日常的な内容を持つ話題を友だちと話す傾向があるといえよう。

以上のように、男子と女子とでは、友だちと話す程度が違うように思われること、また学校群内の高校を志望する者は、勉学や受験に関連した話題を友だちと話すことが多いことがわかる。男子においては、学校群内の高校を志望する者は、「将来の職業について」友だちと話す程度が少ないことは興味深い。

#### IV 討 論

##### (1) 進路選択において重視する要因

中学3年生が進路を選択するに際して重視する要因は大別して、自分の学力と先生・家族の意見である。これは、進学志望先の高校が異なっても、一貫した傾向である。しかしながら、両者を重視する程度の相対的な大き

きは進学志望先によって異なり、学校群内の高校を志望する者ほど、自分の学力を重視している。先生や家族の意見を重視する程度では、進学志望先による差はそれほどみられない。また、進学先の評判や通学距離は、学校群内の高校を志望する者が比較的重視する要因である。女子は男子よりも、全体的に見て様々な要因を考慮する程度が大きい。

ここでいう学力とは、日頃の学業成績と模試の成績のことを指している。この学業成績の意味するものは、主要教科であり、受験科目でもある英語、数学、国語の成績であると推測される。これらの学力の要因が、特に学校群内の高校を志望する者に重視されたのは、学校群内の高校への受験が認められるためには、ある水準以上の成績をあげることが必要視されていることによるものであろう。

先生の意見、家族の意見も重視されている要因である。表3に示したように、「受験校」の決定は先生の意見に

表11「入試のこと」を友だちと話す程度

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
男子	A群	74	62	11	147
	B群	88	72	9	169
	C群	34	77	11	122
	計	196	211	31	438

$\chi^2 = 20.07 \quad P < .01$

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
女子	A群	86	58	1	145
	B群	92	64	3	159
	C群	71	49	6	126
	計	249	171	10	430

$\chi^2 = 5.15 \quad n.s.$

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
男子		196	211	31	438
女子		249	171	10	430
計		445	382	41	868

$\chi^2 = 19.39 \quad P < .01$

従うのがよいと考えている生徒は、進学志望先の如何に拘わらず最も多い。また、事実、公立高校普通科への入学志願者がほぼ定員を上回る程度であることからみても、先生の意見が、具体的に受験する高校を決定することに、かなりの影響を与えていることは想像に難くない。先生の意見は、進学志望先を普通科高校にするか職業科高校にするかの決定や、将来の職業の決定に際し重視されていることと並んで、実際にどの高校を受験するかの決定に大きな位置を占めているといえよう。

一方、家族の意見のうち中心的であるのは、両親の意見であろう。生徒が進学するかどうか、普通科高校にするか職業科高校にするか、公立高校にするか私立高校にするかの決定に、両親の意向が反映されたり、あるいは両親との話し合いがなされたりすることはよくみられることである。したがって、中学生の進路選択において両親の意見が重視されるのは当然のことであろう。しかしながら、進路の選択や受験校の決定に関しては、両親の

表12「将来の職業について」友だちと話す程度

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
男子	A群	7	41	99	147
	B群	21	65	83	169
	C群	15	54	53	122
	計	43	160	235	438

$\chi^2 = 19.09 \quad P < .01$

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
女子	A群	17	62	66	145
	B群	14	89	57	160
	C群	16	65	45	126
	計	47	216	168	431

$\chi^2 = 6.13 \quad n.s.$

性別	会話の程度	よく話す	話すときどき	ほとんど話さない	計
	群				
男子		43	160	235	438
女子		47	216	168	431
計		90	376	403	869

$\chi^2 = 19.60 \quad P < .01$

意見にしたがうのがよいと考えている者はそれほど多くない。両親の意見によって今後の進路が定められてしまうようなことは少なくなっているといえよう。

表2に示したように、進路の選択に際して、中学生は自分の意見もかなり重視している。したがって、中学生が自己の進路選択を行なう際には、自分の持つ学力や両親の意見を考慮に入れながら、また、具体的な受験校の決定には先生の意見に従いながら、自分の意見や考えができるだけ反映されるようにして進学志望先を決定して行くように思われる。しかし、進路の選択において考慮される要因には、幾つかの要因があり、それらのうち何をより重視するかは、進学志望先を学校群内の高校にするか、学校群以外の公立高校にするか、それとも私立高校にするかによって異なっている。

## (2) 決定における主体性の程度

進路選択だけでなく、将来の職業、受験勉強の方法を

表13 「政治・経済や社会のできごと」を  
友だちと話す程度

性別	会話の 程度	よく 話す	話す ときどき	話さ ない	ほと んど	計
	群					
男子	A群	8	46	93	147	
	B群	9	45	114	168	
	C群	7	26	89	122	
	計	24	117	296	437	

$\chi^2 = 3.42$  n. s.

性別	会話の 程度	よく 話す	話す ときどき	話さ ない	ほと んど	計
	群					
女子	A群	4	24	117	145	
	B群	1	23	136	160	
	C群	1	17	108	126	
	計	6	64	361	431	

$\chi^2 = 3.66$  n. s.

性別	会話の 程度	よく 話す	話す ときどき	話さ ない	ほと んど	計
	群					
男子		24	117	296	437	
女子		6	64	361	431	
計		30	181	657	868	

$\chi^2 = 30.96$   $P < .01$

決定する時に、自分の考え通りにするのがよいと考える者は、学校群内の高校を志望する者の間で多かった(表3)。それ以外の、クラブ・部活動、休日の過ごし方のような問題については、進学志望先による違いは見出されなかった。このことは、進学や受験、あるいは今後の人生選択に関することについては、学校群内の高校を志望するの方が、主体性の程度が大きいことを示しているように思われる。とはいうものの、他の2群にしても、ものごとの決定を自分の考え通りにするのがよいと思う者が少ないわけではない。

中学生という年代は、それまでの家族、特に両親の庇護の下で育てられてきた状態を脱して、両親の支配からの解放を獲得し、自分自身の判断でものごとを決定したいと思うようになる時期である。したがって、本調査で挙げられた7つの事柄のうちの多くで、「自分の考え通りにすること」の選択率が第1位であったことには不

議はない。中学生がものごとを自己決定したいと思う程度はかなり大きいといえる。

しかしながら、自己の進路や受験に関することの決定において、進学志望先の違いによる差が見られたことにも示されるように、すべての中学生が全体として同程度の主体性を保持しているわけではない。決定を下すことが、単にその時点において必要であるというばかりでなく、今後の人生の選択にも影響を与えると予測されるような問題であるか否かによって、主体性の程度は異なると考えられる。本調査では、学校群内の高校を志望する者とそれ以外の者との間に、決定の際の主体性の程度に相違が見られたが、この相違を生み出している要因は何であるのかについて、慎重に検討することが必要である。単なる進学志望先の相違によるものではなく、それ以外により有効な説明変数が存在することも考えられるからである。いずれにせよ、ものごとの自己決定が可能になることを自立の過程という観点から新たに捉え直すことが求められるであろう。

### (3) 中学校生活に対する意識

本調査では、進学志望先の違いによって、中学校生活に対する意識にどんな差が見られるのかについても検討した。その結果、次の2つのことが明らかとなった。

まず、中学校生活への満足度に関して、授業や学習面、学校や学級の雰囲気、学校生活全般に対する満足度は、学校群内の高校に進学を志望する者は高い。

また、友だちとの会話の内容や程度に関して、勉強や成績、学習のことや入試のことを友だちと話す程度は、私立高校だけを志望する者の方が少なく、その逆に、歌手やスポーツのことや将来の職業のことを友だちと話す程度は、学校群内の高校を志望する者の方が少ない。

このように、学校群内の高校を志望する者と、私立高校だけを志望する者との間では、中学校生活の中で満足感を感じずる側面や、友だちとの会話の内容において顕著な相違がみられる。この違いは、授業、学習、勉強、入試などの、中学校生活のうちの勉学的側面に対する意識が、学校群内の高校を志望する者と、私立高校だけを志望する者との間では異なっていることによると思われる。

ところで、中学校における教育では、社会の形成者として必要とされる基礎的な知識や技能を習得することにその主要な目標が置かれている。したがって、授業、学習など勉学的側面が中学校生活の中心的位置を占め、生徒がどの程度中学校教育の目標に達しているかの客観的評価、その中でも特に、学業成績の程度が、教師と生徒の双方にとって重大な関心の対象とならざるを得ない。先にも述べたように、学校群内の高校を受験する

ことを認められることは、ある水準以上の学力をその生徒が身に付けていることを教師から保証されることを意味している。したがって、学校群内の高校を志望する者は、中学校生活のうち勉学に関連した側面や、学校生活全般に対する満足度において他の者より高い傾向が見られることにはそれほど不思議はない。また、公立高校の受験が間近に迫っていた調査時期を考え合わせると、公立高校を志望する者の方が、私立高校だけを志望する者よりも、入試や勉強のことをよく話していることもうなづける。

さて、将来の職業は、学校群内の高校を志望する男子が、他の者と比較して、友だちと話すことが少ない話題であった。一方、表3では、将来の職業を決定する際には、学校群内の高校を志望する者ほど、自分の考え通りにすることがよいと答えていた。これはやはり、調査時期が受験を目前に控えた時期であるために、友だちとの会話の対象になりにくかったことが関連していると考えられ

る。また、友だちと会話する程度において、顕著な性差がみられたことは興味深い。本調査で取り上げた9種の話題のうち、「政治・経済や社会のできごと」以外のすべてについて、女子の方が男子よりも友だちと話すことが多い。このことは、中学生の段階における会話の内容と程度からみたとときの友人関係のパターンが、男女間では異なっていることを示唆しているといえよう。

## 文 献

- 神谷孝男 1979 中学生の学歴と進路選択に関する調査研究 愛知教育大学研究報告(教育科学編), 28, 137-148
- 久世敏雄・後藤宗理 1980 中学生の進路選択に関する一研究(印刷中)
- 日本教育学会入試制度研究委員会 1978 入学試験制度の教育学的研究 第4集 日本教育学会

(1981年7月31日 受稿)

中学生の進路選択と学校生活に関する調査

1979・2～3

名古屋大学教育心理学教室内

発達心理学研究室

この調査は、現在の中学生が中学生生活をどのように感じ、過しているかを調べようとするものです。結果は、統計的に処理しますので、あなたの回答が他人に知られることは絶対にありません。あなたが感じたりすることをありのままに書いて下さい。

記入上の注意

1. 思ったままを最後まで書いて下さい。
2. 回答は該当する番号（数字）を○でかこみ（ ）内には具体的に書いて下さい。
3. 各問の最後の  内には、何も記入しないで下さい。

まず、あなた自身についてうかがいます。

(1) あなたの区は（                      ）区
(2) あなたの学校名は（                      ）中学
(3) あなたの性別は                      1. 男                      2. 女

(1)	(3)

〔1〕 中学卒業後の進路は次のどれですか。

1. 次のいずれかの項目に○印をつけて下さい。

1. 進学	2. 就職	3. 家業をつぐ	4. 家事手伝い
5. その他（具体的に                      ）			

1.	
2. (1)	
2. (2)	
2. (3)	

2. 1. 進学と答えた方にうかがいます。

(1) 受験する（した）私立高校はどこですか。

（                      ）	高校
--------------------------	----

(2) 受験しようとする公立高校はどこですか。

（                      ）	高校
--------------------------	----

(3) その公立高校はあなたの希望どおりですか。

全く希望 どおり	やや希望 どおり	どちらとも いえない	あまり希 望どおり ではない	全く希望 どおりで はない
1	2	3	4	5

中学生の進路選択と学校生活に対する意識に関する研究

3. 2.就職と答えた方にうかがいます。

(1) 就職先はどこですか。

(具体的に )

3. (1)

(2) その就職先は、あなたの希望どおりですか。

3. (2)

全く希望 どおり	やや希望 どおり	どちらとも いえない	あまり希 望どおり ではない	全く希望 どおりで はない
1	2	3	4	5

4. あなたが進学先、就職先をきめたとき、次の事柄をどの程度考えに入れていましたか。各項目ごとにあてはまるところに○印をつけて下さい。

	れた よく 考えに い	れた やや 考えに い	えな い ど ち ら と も い	あ ま り 考 え に い れ な か っ た	全 く 考 え に い れ な か っ た	4. (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)
(1) 学業成績	1	2	3	4	5	
(2) 模試の成績	1	2	3	4	5	
(3) 自分の興味・関心	1	2	3	4	5	
(4) 親の職業	1	2	3	4	5	
(5) 家庭の経済力	1	2	3	4	5	
(6) 進学先・就職先の評判	1	2	3	4	5	
(7) 自分のなりたい職業	1	2	3	4	5	
(8) 通学(勤)距離	1	2	3	4	5	
(9) 家族の意見	1	2	3	4	5	
(10) 先生の見	1	2	3	4	5	
(11) 友だちの見	1	2	3	4	5	

5. あなたは進路選択に自分の意見が強くはいつていると思ひますか。それともまわりの意見が強かつたと思ひますか。

全く自分 の見	やや自分 の見	どちらとも いえない	や ま わ り の 見	全 く ま わ り の 見
1	2	3	4	5

5.

資 料

6. 以下の人たちのアドバイスは、あなたが将来のこと（進学・就職など）を考えるにあたってどのくらい役にたちましたか。

	た 大いに役 だっ	やや役 だっ	え ない ど ち ら と も い	あ ま り 役 だ た な か っ た	全 く 役 に た た な か っ た
(1) 父	1	2	3	4	5
(2) 母	1	2	3	4	5
(3) 先生	1	2	3	4	5
(4) 友だち	1	2	3	4	5

6.

(1)

(2)

(3)

(4)

〔Ⅱ〕 あなたは中学生生活などについて、どう感じていますか。次の各項目ごとにあてはまるところに○印をつけて下さい。

	お お い に 満 足	や や 満 足	え ない ど ち ら と も い	や や 不 満	全 く 不 満
(1) 授業・学習	1	2	3	4	5
(2) クラブ活動	1	2	3	4	5
(3) 部活動	1	2	3	4	5
(4) ホームルーム活動	1	2	3	4	5
(5) 学校行事	1	2	3	4	5
(6) 受験指導	1	2	3	4	5
(7) 学校・学級の雰囲気	1	2	3	4	5
(8) 友だち	1	2	3	4	5
(9) 先生	1	2	3	4	5
(10) 学校生活全般	1	2	3	4	5
(11) 家庭生活全般	1	2	3	4	5
(12) 社会生活全般	1	2	3	4	5
(13) 自己の生活全般	1	2	3	4	5

〔Ⅱ〕

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

(11)

(12)

(13)

中学生の進路選択と学校生活に対する意識に関する研究

〔Ⅲ〕 あなたは次の話題について友だちとどの程度話していますか。各項目についてあてはまるところに○印をつけて下さい。

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない	〔Ⅲ〕
(1) 勉強や成績のこと	1	2	3	(1) <input type="text"/>
(2) 学習のこと	1	2	3	(2) <input type="text"/>
(3) 家でのできごと	1	2	3	(3) <input type="text"/>
(4) 先生や友だちのこと	1	2	3	(4) <input type="text"/>
(5) 異性のこと	1	2	3	(5) <input type="text"/>
(6) 歌手やスポーツのこと	1	2	3	(6) <input type="text"/>
(7) 入試のこと	1	2	3	(7) <input type="text"/>
(8) 将来の職業について	1	2	3	(8) <input type="text"/>
(9) 政治・経済や社会のできごと	1	2	3	(9) <input type="text"/>

〔Ⅳ〕 あなたは現在どんなことに興味がありますか。次のうちからもっとも関心のあるもの三つを選んで○印をつけて下さい。

1.友だち	2.異性	3.勉強	4.旅行	5.学校行事
6.音楽	7.政治・社会	8.スポーツ	9.性	10.アルバイト
11.映画	12.テスト	13.読書	14.将来の生活	15.学校生活
16.部活動	17.生徒会	18.先生	19.テレビ	20.ラジオ
21.ファッション	22.受験	23.就職	24.家族	

〔Ⅳ〕

(1) (2) (3)

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

資 料

[V] 以下の各事柄について決定するとき、次にかかげるどの人の意見ないし情報にしたがうのがもっともよいことだと思いますか。同一の事柄について一つだけ選んで○印をつけて下さい。事柄が違えば同じ人を何度選んでもかまいません。

	父	母	きょうだい	自分の考え通りにすること	友だち	先生	先輩	新聞・雑誌	[V]
(1) 進路	1	2	3	4	5	6	7	8	(1) <input type="checkbox"/>
(2) 将来の職業	1	2	3	4	5	6	7	8	(2) <input type="checkbox"/>
(3) 受験勉強の方法	1	2	3	4	5	6	7	8	(3) <input type="checkbox"/>
(4) 受験校	1	2	3	4	5	6	7	8	(4) <input type="checkbox"/>
(5) クラブ・部活動	1	2	3	4	5	6	7	8	(5) <input type="checkbox"/>
(6) 休日の過ごし方	1	2	3	4	5	6	7	8	(6) <input type="checkbox"/>
(7) 異性との交際	1	2	3	4	5	6	7	8	(7) <input type="checkbox"/>

[VI] あなたは現在何か悩んでいますか。

1. 次のいずれかの項目に○印をつけて下さい。

1. 悩んでいる	2. 悩んでいない
----------	-----------

[VI] 1

2. 1.悩んでいると答えた方にうかがいます。

(1) あなたはどんなことで悩んでいますか。次の中から一つ選んで下さい。

1.進路	2.勉強の仕方	3.成績
4.身体・性格	5.家庭	6.異性との交際
7.友人関係	8.生き方	9.受験
10.その他(具体的に )		

[VI] 2 (1)

(2) その悩みはあなたにとって重大な悩みですか。

重大な悩み	やや重大な悩み	どちらともいえない	あまり重大な悩みではない	全く重大な悩みではない
1	2	3	4	5

[VI] 2 (2)

〔Ⅶ〕 次の各質問に答えて下さい。

1. 中学生活でもっとも印象に残ったことはどんなことですか。

（具体的に

2. 中学生活でもっとも楽しかったことはどんなことですか。

（具体的に

3. 中学生活でもっとも悲しかったことはどんなことですか。

（具体的に

ご協力ありがとうございました。